



「支援を必要とする子供たち一人一人に作成されている個別の指導計画の作成の仕方や活用の方法がわからない。」といった相談を受けることがあります。今回は、**個別の指導計画の具体的な目標設定のポイント**について御紹介します。

【冰山モデル】

具体的な目標を設定するためには、的確な**実態把握**が必要！

目に見える「困難さ」

- ・宿題や手紙を提出できない。
- ・時間内に準備ができない。

見えにくい課題
見えにくい要因

- 認知が低い 語彙が少ない
- 見通しをもちにくい
- 自信がない 気がちりやすい

見えにくい課題・要因にアプローチすることが重要

目に見える**行動**（海面に出ている氷）は、様々な**背景**（海面下に隠れている巨大な氷）によって引き起こされています！

「困難さを引き起こす要因は何か？」を考えることが重要です！



【目標設定のポイント】



具体的な目標設定を行うためには、「**条件**」「**行動**」「**基準**」の3つの要素が示されていることが大切！

的確な**実態把握**

具体的な**目標設定**

指導内容・指導方法・指導場面などの明確化

適正な**評価**

具体的な目標を設定することが、適正な評価につながります！

「**条件（状況）**」とは・・・

利用される環境や教材、支援の質を明らかにする内容

「**行動**」とは・・・

評価ができる行動を示す「動詞」の記述

「**基準**」とは・・・

許容できる達成度の基準点、標準点

（短期目標例）朝の準備をすることができる。

「**条件**」「**行動**」「**基準**」が十分に示されておらず

評価困難・・・

目標の再検討！

条件

条件

基準

行動

いつ？

手立ては？

いつまでに？

何ができる？

3つの要素をもとに修正してみると・・・

（修正短期目標例）

登校してすぐに、一人で連絡ボードを確認し、提出物と宿題を

朝の会が始まるまでに

決められたボックスに

提出する。

目標の再検討！

なぜできなかったのか？

条件

基準

行動

◆評価が可能に！

できなかった・・・

できた！

◆次につながる目標設定が可能に！

- ・連絡ボードで → 連絡帳で
- ・朝の会までに → 5分以内で 等

子供が
確実な力を
身に付ける！